

新たな北海道総合開発計画 計画部会による中間整理(概要)

国土交通省北海道局
令和5年3月9日

中間整理の構成

第1章 計画策定の意義

第1節 北海道開発の経緯

1. 北海道開発の歴史
2. 第8期北海道総合開発計画の経緯

第2節 新たな北海道総合開発計画の意義

第2章 計画の目標

第1節 我が国を取り巻く状況

1. 人口減少・少子高齢化と人口動態の変化
2. 気候変動と自然災害の激甚化・頻発化
3. 社会を変える技術
4. 国際情勢の変化

第2節 北海道の資源・特性

1. 広大な大地
2. 食料供給力
3. エネルギー・資源
4. 自然環境・文化
5. 地理的特性・寒冷地技術

第3節 2050年の北海道の将来像

1. 国の課題解決のために果たす役割
2. 将来像
3. 将来像を支える社会基盤
4. 将来像を実現するために進むべき方向性

第4節 新たな北海道総合開発計画の目標

- 目標1 「我が国の豊かな暮らしを支える北海道
～食料安全保障、脱炭素化、観光立国等を先導」
- 目標2 「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造
～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」

第3章 計画推進の基本方針

第1節 計画の期間

おおむね10年間

第2節 計画の主要施策

第3節 計画の進め方

1. 「リアル」と「デジタル」のハイブリッドによる北海道型地域構造の
保持・形成
2. 計画の実効性を高めるための方策
(1) 官民の垣根を越えた「共創」
(2) 社会変革の鍵となるDX・GXの推進
(3) フロンティア精神の再発揮
(4) 戦略的な社会資本整備
3. 計画のマネジメント

第4章 計画の主要施策

第1節 「我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障、 脱炭素化、観光立国等を先導」に係る主要施策

1. 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展
2. 地球温暖化対策を先導する活力ある脱炭素社会の実現
3. 世界トップクラスの観光地の形成
4. 地域の強みを活かした産業の育成
5. 豊かな自然と共生する持続可能な社会の形成
6. 北方領土隣接地域等の振興
7. アイヌ文化の振興等

第2節 「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造～生産空間の 維持・発展と強靱な国土づくり」に係る主要施策

1. デジタルの活用による生産空間の維持・発展
2. 多様で豊かな地域社会の形成
3. 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成
4. 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

計画策定の意義(第1章)、計画の目標(第2章)

計画策定の意義

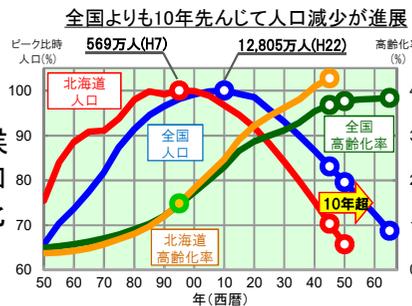
《北海道開発の基本的意義》 北海道の資源・特性を活かして、その時々々の国の課題解決に貢献するとともに、地域の活力ある発展を図る。

- 第8期計画では、北海道の強みである「食」と「観光」を担う「生産空間」を支えながら「世界水準の価値創造空間」の形成を目指すこととした。
- しかし、感染症の拡大、2050年カーボンニュートラルに向けた国の政策の展開、ウクライナ情勢や円安等を背景としたエネルギーや食料品の価格高騰、国際的な供給不安が発生するなど、北海道開発を取り巻く状況に急速かつ大きな変化が生じている。
- 広域分散型社会を形成し、再生可能エネルギーのポテンシャルが高い北海道は、我が国の経済社会づくりを先導する役割を担っていかねばならない。
- 北海道開発を推進するためには、あらゆる主体がデジタル技術を活用して連携・協働し課題解決の取組を推し進める必要がある。
- このため、2050年までの長期を見据えた北海道開発の展開の方向と施策の内容を示すものとして新たな計画を策定する。

計画の目標

我が国を取り巻く状況

- ・ 北海道の人口減少・高齢化は全国を上回るスピードで進行
- ・ 北海道は全国の他の地域と比べて気候変動の影響による将来の降雨量の増加率が大きい。水害等の激甚化・頻発化や農作物の生育障害、品質低下等の深刻化が懸念
- ・ エネルギーや食料品の価格高騰や国際的な供給不安が発生 等



北海道の資源・特性 (ポテンシャル)

- ・ 豊かな資源に恵まれた北海道には、変化に立ち向かい課題を解決する「広大な大地、食料供給力、エネルギー・資源、自然環境・文化」等のポテンシャルがある。



北海道が果たすべき6つの役割

- ① 分散型国づくりを支える地方創生を先導する
- ② 我が国の食料安全保障を支える
- ③ 我が国の脱炭素化を先導する
- ④ 北海道の自然環境・文化を受け継ぐ
- ⑤ 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土をつくる
- ⑥ 競争力のある産業を育成し我が国の経済成長に貢献する

将来像 (北海道が果たすべき役割を踏まえた2050年の将来像)

- 食、観光、脱炭素化等の北海道の強みを活かした産業が国内外に展開し、豊かな北海道が実現することで、我が国の経済安全保障に貢献している。
- デジタルの実装により、北海道内の地方部における定住・交流環境が維持されるとともに、国内外から人を魅きつける多様な暮らし方が実現している。

進むべき方向性

(将来像を実現するために進むべき12の方向性)

- 世界市場を見据えた「食」、「観光」、「再生可能エネルギー」産業を形成
- 地域で生まれ、育ち、安心して暮らしていくことのできる社会を形成
- 大規模災害から生命・財産を守り、社会の重要な機能を維持 等

将来像を見据えた新たな計画の目標

我が国の豊かな暮らしを支える北海道
～食料安全保障、脱炭素化、観光立国等を先導

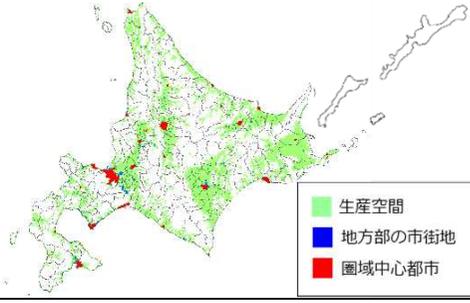
北海道の価値を生み出す北海道型地域構造
～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり

計画推進の基本方針(第3章) 計画の進め方①

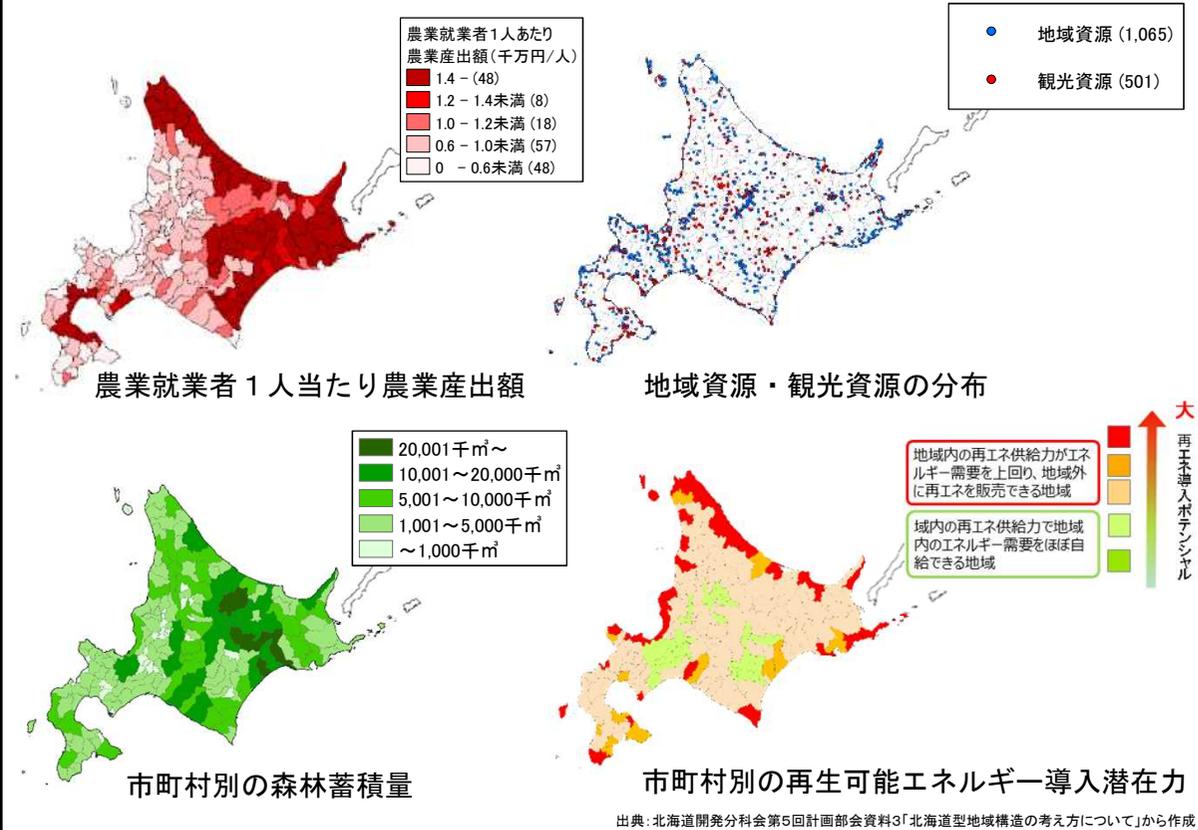
1. 「リアル」と「デジタル」のハイブリッドによる北海道型地域構造の保持・形成

第8期計画では、北海道の強みである「食」と「観光」を担う場である「生産空間」の維持・発展を北海道開発の中心的課題と位置付け。

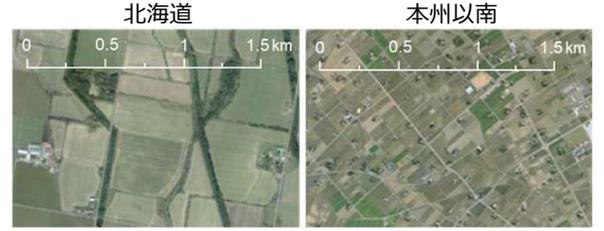
「北海道型地域構造」は、北海道の豊かな価値を生み出す「生産空間」に住み続けられる環境を実現するため、機能分担を基に広域分散型社会を捉えた北海道総合開発計画の根幹となる概念。



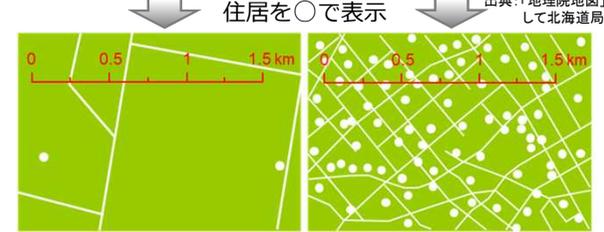
生産空間は、これまでの「食」と「観光」という強みに加えて、「脱炭素化」への貢献という新たな価値が加わり、一層重要性が高まる。



生産空間は主として地方部に存在し散居形態。



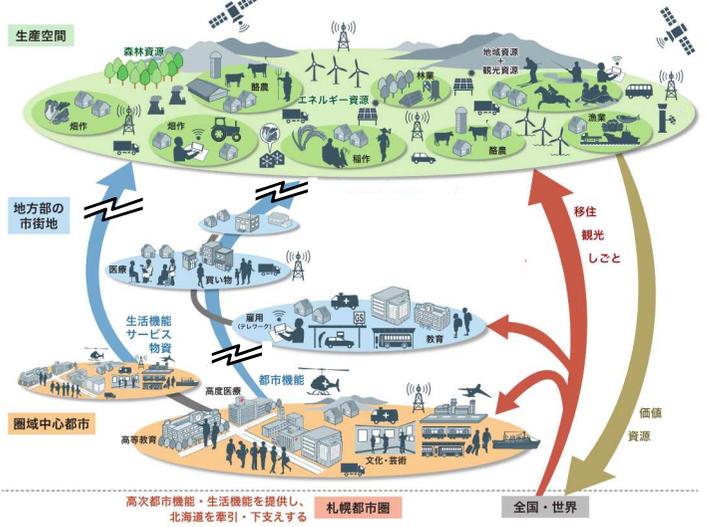
食料生産は実際にその場に住み続ける、観光は実際にその場に行くという「リアル」を前提に成立。



居住形態の比較

広域分散型社会における生活環境を維持するためには、デジタル技術の活用による「リアル」の補強・補完が有効。実際の人々の営みを支える「リアル」と、時間と空間の制約を克服できる「デジタル」のハイブリッドを各種施策推進のコア概念として、「生産空間」を維持・発展。

北海道型地域構造 (イメージ)



デジタル技術の活用例



計画推進の基本方針(第3章) 計画の進め方②

2. 計画の実効性を高めるための方策

(1) 官民の垣根を越えた「共創」

- ・果敢に挑戦する人材の育成など人への投資を推進。
- ・民間企業等が公的役割を担う取組を支援し、地域の課題を解決する社会を実現。



創業支援・長期インターンシップの取組
出典：NPO法人北海道エンブリッジ

女性起業家支援ネットワーク形成の取組
(ほくじよき.net)



生産空間の物流を支える取組(物流事業者と連携し、道の駅を活用した中継輸送)

(2) 社会変革の鍵となるDX・GXの推進

- ・経済社会システムを変革し、課題解決と新たな価値を創出するDX・GXを推進。



出典：デジタル田園都市国家構想総合戦略(概要)

出典：資源エネルギー庁HP

(3) フロンティア精神の再発揮

- ・宇宙関連産業など地理的・気候的な優位性を活かした先駆的産業への支援。
- ・北海道の強みである農業等でフロンティア精神を再び発揮。



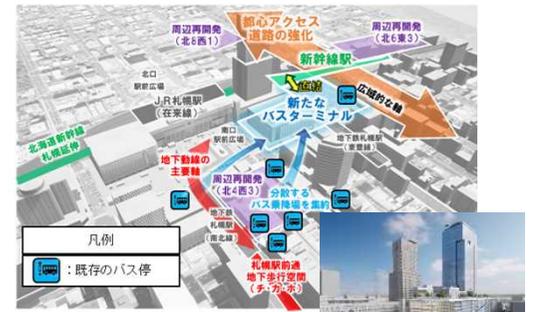
北海道大樹町で開催された「宇宙サミット2022」
写真：北海道宇宙サミット実行委員会提供

(4) 戦略的な社会資本整備

- ・流域治水やグリーンインフラなど北海道の自然や地形を活かした整備。
- ・食料安全保障に貢献する生産基盤の強化や観光振興にも寄与する交通ネットワークの整備。
- ・新技術の積極的導入や技術研究開発を推進。



北海道の地域特性を活かした流域治水



札幌駅周辺における交流拠点整備(イメージ)

提供：札幌駅交流拠点北5西1・西2地区市街地再開発準備組合



耐震強化岸壁等の整備



農業生産基盤・情報通信基盤の整備

北海道の強み「食」、「観光」を一層強化

- 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展
- 世界トップクラスの観光地の形成



輸入依存度の高い小麦・大豆・飼料作物等の生産・利用拡大



観光消費額単価の高い高付加価値旅行者に向けた観光コンテンツ創出

「再生可能エネルギー」ポテンシャルの発揮で全国の「脱炭素化」に貢献し地域経済に利益をもたらすとともに新しい産業を育成

- 地球温暖化対策を先導する活力ある脱炭素社会の実現
- 地域の強みを活かした産業の育成



地域資源の有効活用、エネルギーの地産地消等による地域活性化



出典: 大樹町HP

宇宙関連産業等の振興

我が国の豊かな暮らしを支える北海道
 ~食料安全保障、脱炭素化、観光立国等を先導

北海道の価値を生み出す北海道型地域構造
 ~生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり

北海道の雄大な自然や多様な文化等の価値の維持、北方領土隣接地域や国境周辺地域の振興

- 豊かな自然と共生する持続可能な社会の形成
- 北方領土隣接地域等の振興
- アイヌ文化の振興等



保水・浄化機能、洪水調節機能等を有する湿原



北方領土問題解決のための環境づくり



各地域の保存会による舞踊披露



離島港湾の整備

デジタル技術により時間と空間の制約を克服し必要なサービスを楽しむ

- デジタルの活用による生産空間の維持・発展



食品を載せて自宅前に到着するドローン
 出典: 北海道経済産業局HP

多様な人材の地域活動への参加促進、生産空間の魅力や定住・交流環境の向上

- 多様で豊かな地域社会の形成



北海道価値創造パートナーシップ活動 (Web交流会)

生活サービスへアクセス可能な交通ネットワークの確保、広域的な人流・物流を支える交通・輸送体系の強化

- 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成



高規格道路の整備



空港の受入機能強化

地域の暮らしを守り北海道のポテンシャルを活かして我が国の国土強靱化に貢献

- 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり



根幹的な治水対策としての遊水地の整備



積雪寒冷を考慮した防寒機能付きの津波避難タワーの整備